

金の香壇で祈ることによって、キリストの天のとりなしに応答する

聖書：ヘブル 7:25. コロサイ 3:1-4. 出 30:1-10

- I. キリストは彼の天の務めにおいて、とりなし、供給し、神の行政を執行しています。
わたしたちは、天の務めにおけるキリストの活動に応答する者となる必要があります
——ヘブル 2:17. 4:14. 7:25-26. 8:1-2. 啓 5:6. コロサイ 3:1-4. 1:9. 4:12：
- A. 大祭司として、彼はとりなしています。天の奉仕者として、彼は供給しています。
神の七つの目を持つ贖い主として、彼は神の行政を執行し、神の定められた御旨を
完成しています——ヘブル 7:25-26. 8:1-2. 啓 5:6。
- B. 天におけるキリストの務めは、わたしたちの応答を必要とします。わたしたちは地
上で、キリストの天の務めの反映となって、とりなすキリストの祈りを祈る必要が
あります——コロサイ 3:1-4. ローマ 8:34：
1. わたしたちの祈りを通して、かしらであるキリストは道が与えられ、彼のからだ
を通して彼の行政を遂行します——コロサイ 1:9-10, 18. 2:19. 3:1-2. 4:12。
 2. かしらがとりなし、供給し、行政を執行することによって天で働いているとき、
わたしたち、からだは地上で働いて、キリストの天の務めに応答し、彼が行なっ
ていることを反映しています——ヘブル 2:17. 4:14. 7:26. 8:1-2. 啓 5:6。
 3. わたしたちは天の務めにおいて主と一になり、彼の心と一である心を持つことを
切望すべきであり、彼の祭司職、務め、行政において彼と一になることを慕うべ
きです——I コリント 6:17。
- II. キリストの天のとりなしに応答するために、わたしたちは金の香壇のビジョンを見る
必要があります——出 30:1-10：
- A. 香壇は、とりなす方としてのキリストを表徴します——ヘブル 7:25. ローマ 8:34。
- B. 香壇はキリストの予表であり、キリストが祈っていることを表徴します——出30:1-3。
- C. 香壇は、幕屋と外庭における他のすべての場所での活動が動機づけられる場所です
——ヘブル 7:25。
- D. キリストのとりなす生活、祈りの生活は、神聖な行政の中心です——ローマ 8:34.
啓 8:3-4：
1. キリストの祈りの生活は、神が地上で彼の行政を執行する中心です——ヨハネ第
17章。
 2. 神の行政を執行することは、香壇から彼にささげられる祈りによって動機づけら
れます——啓 8:3-4。
 3. 香壇にささげられた祈りは、宇宙を支配します。
 4. 香壇は天のホワイトハウスと考えられます。すべてのことが、この神聖な中心か
ら動機づけられ、執行され、実行されます。
- E. 復活と昇天の後、個人のキリストは団体のキリストになりました。ですから、今日、
神の御前で、個人のキリストがとりなしているだけでなく、団体のキリスト、からだ
を伴うかしらもとりなしています——I コリント 12:12. 使徒 12:5, 12：
1. 今日、とりなす者はキリストご自身だけでなく、からだを伴うキリストです——ロ
ーマ 8:26-27, 34。
 2. かしらであるキリストは天でとりなしており、からだである召会は地でとりなし
ています——ヘブル 7:25. 使徒 12:5, 12。
 3. キリストの肢体、またからだのキリストの一部として、わたしたちはとりなし

の務めにおけるキリストと協力し、とりなしの祈りの中で彼のとりなしを実行します——ローマ 8:26-27, 34. I テモテ 2:1。

F. 香壇のビジョンを持つなら、わたしたちの祈りの生活は徹底的に変わるでしょう。わたしたちは、神の定められた御旨を執行するため、神聖な行政を実行するため、神の供給する恵みを分与するために祈ります。

Ⅲ. キリストの天のとりなしに応答するために、わたしたちは金の香壇を経験する必要があります——出 30:1-10. ローマ 8:26-27. I テモテ 2:1 :

A. わたしたちはキリストのとりなす生活にあずかるべきです——エペソ 6:18-19. コロサイ 4:3. I テサロニケ 5:25. II テサロニケ 3:1. ヘブル 13:18。

B. どのような祈りを持つかは、わたしたちがどのような人であるかにかかっています——ルカ 9:54-55. I テモテ 2:8. エペソ 6:18. コロサイ 1:9-10。

C. わたしたちは香壇でキリストと共にとりなそうとするなら、三つの重要な事柄を見る必要があります :

1. わたしたちは祈るとき、幕屋の中にいるべきです。すなわち、神の中にいるべきです——ヨハネ 1:14. 14:2-3, 20, 13-14. 15:4 前半, 7. 17:24, 26 後半。

2. わたしたちは祈ろうとするとき、まず聖なる食物を食べて満足すべきです。すなわち、力を与える供給としての内なる神と共に祈るべきです—— 1:29. 6:53-56。

3. わたしたちは祈るとき、香を神にささげるべきです。すなわち、香としてのキリストをもって祈るべきです——出 30:34-38. 啓 8:3-4。

D. わたしたちが香壇で祈るとき、わたしたちの祈りには異火も異なる香もあってはなりません——レビ 10:1. 出 30:9 前半 :

1. わたしたちの祈りに異火を持つことは、天然のであって、十字架によって対処されたことがないある種の動機を持つことです——レビ 10:1。

2. わたしたちの祈りに異なる香を持つことは、キリストと関係のない祈りを持つことです——出 30:9 前半。

E. 幕屋の中の香壇で祈ろうとするなら、わたしたちは焼かれて灰になり、減少して無になる必要があります——レビ 6:13. 詩 20:3. ガラテヤ 2:20. I コリント 1:28 後半 :

1. 幕屋の中にいることは神の中にいることであり、神の中にいることの要求はわたしたちが無になることです——ヨハネ 15:4 前半, 5 後半。

2. わたしたちが焼かれて灰になるなら、もはや天然ではなくになります—— I コリント 2:14-15 :

a. わたしたちの振る舞い、視力、美德は、わたしたちの天然の存在と等しく、天然の存在は神の証しとしてのキリストに相対します。

b. わたしたちは香壇で祈ろうとするなら、もはや天然の振る舞い、天然の視力、天然の美德を持ってはなりません。

c. わたしたちは香壇で祈ろうとするなら、キリストを命の供給として持って正常な振る舞いとし、光として持って正常な視力とし、美德として持って、神に昇る甘い香りを持たなければなりません。

F. わたしたちが香壇で祈るとき、自分に占有されるのは難しいのです。むしろ、わたしたちは神のエコノミーのために、神の分与のために、神の行動のために、神の回復のために祈ります——エペソ 1:17-23. 3:14-21. コロサイ 1:9-10. 4:12。